知的障害特別支援学校　国語科

指導内容設定に生かす実態把握表（案）

児童生徒名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※実態把握を行うに当たっては、以下の各段階の児童生徒の姿を参考にしてください。

特別支援学校学習指導要領解説より

〈小学部１段階の児童の姿〉

１段階の児童は、身近な人や興味や関心のある物事との関わりを繰り返しながら、その場面で用いる言葉が存在することや､言葉を使うことで相手の反応に変化があることに気付き始める段階である。

このため、国語科の指導においては、日常生活で繰り返される出来事や児童の興味・関心のある事柄、人との関わりなどを通して、言葉を用いて、思い描いた事物や事柄を相手と共有し、自分の思いを身近な人に伝えるために必要な国語を身に付けることが大切である。

〈小学部２段階の児童の姿〉

２段階の児童は、身近な人や興味や関心のある物事との関わりを繰り返しながら、身近な人からの話し掛けを聞いたり、真似をしたりすることを通して、言葉で物事や思いなどを意味付けたり表現したりするなどして、言葉でのやり取りができてくる段階である。

このため、国語科の指導においては、児童が日常生活の中で触れたり見聞きしたりする物事や出来事について表す言葉を繰り返し聞かせたり、遊びや関わりなど児童の興味や関心に応じて言葉で表現したりすることを通して、身近な人とのやり取りを深め、興味や関心を更に広げていくために必要な国語を身に付けることが大切である。

〈小学部３段階の児童の姿〉

３段階の児童は、身近な人や興味・関心のある物事との関わりを繰り返しながら、言葉を用いて、自分の思いや気持ちを伝えるだけでなく、自分のイメージや思いを具体化したり、相手とそれらを共有したりして、新たな語彙を獲得したり、相手に伝わるように表現を工夫したりする段階である。

このため、国語科の指導においては、経験したことを話したり、共感をもって聞いたり、相手に分かるよう工夫して伝えたりすることを通して、児童が言葉によって考えを深め、相手の話を受け止めていくために必要な国語を身に付けることが大切である。

〈中学１段階の生徒の姿〉

１段階の生徒は、身近な事物や人だけでなく、地域や社会における事物や人との関わりが増えてくる。このような生活を通して様々な言葉に触れることで、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いたり、知っている言葉や新たに獲得した言葉の使い方に気を付けることで、様々な事象や気持ちに関して多くの相手と伝え合うことができるようになることに気付いたりする段階である。

このため、国語科の指導においては、生徒の生活の広がりに伴う事物や人との関わりの中で、言葉で様々な情報を得たり人の思いや考えに触れたりする経験や、自分の思いや考えをまとめたり相手に分かりやすく伝えたりする経験を積み重ねることを通して、日常生活や社会生活に必要な国語を身に付けることが大切である。

〈中学部２段階の生徒の姿〉

２段階の生徒は、地域や社会における事物や人との関わりを広げ、繰り返しながら、様々な言葉に触れることで、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いたり、相手や目的に応じて工夫をしながら伝え合おうとしたりする段階である。

このため、国語科の指導においては、生徒の生活の広がりに伴う事物や人との関わりの中で、言葉を用いて伝えたいことを明確にして伝えたり、対話の経験を積み重ねたりすることを通して、高等部での職業教育などを意識しながら、将来の職業生活に必要な国語を身に付けることが大切である。

はじめに

この実態把握表は、知的障害特別支援学校の国語科において指導計画の立案や授業構想を行う際に子供の学習の状況を把握し、具体的な指導内容を設定するためのツールです。

新特別支援学校学習指導要領に示された国語科（知的）の内容ごとに、児童生徒がその内容を身に付けていると捉えられる姿を設定し、この姿が見られるかどうかを観察し、各内容における定着の様子を見ることとしています。

このことにより、対象の児童生徒が国語科の各事項のどの段階にいるのかを把握することができ、授業構想をするに当たっては、具体的な指導内容の設定に生かすことができるようにもなっています。

本実態把握表の使い方

Ⅰ　実態把握の手順（「指導内容設定に生かす実態把握表（本表）」を利用）

1　内容を確認する

各ページには「知識及び技能」の各事項ごとに、小学部１段階から中学部２段階の内容が示されている。小学部１段階から順に各内容を確認し、「内容」にある表記だけでは分かりにくいときは、下欄にある「内容の捉え」を読み、内容の理解を図る。

2　「子供の姿の例」にあるような姿が、対象とする子供に見られるかを判断する

（各内容について、子供がどの程度身に付けているかを判断する）

「子供の姿の例」を確認し、実態把握を行おうとしている目の前の子供にそのような姿が見られるかを判断する。

太字が子供の姿の例であり、括弧内は実態把握の視点を示しているので、合わせて判断を行う。

3　記録する

「子供の姿の例」から判断した結果を「実態把握の結果」の欄に次のような記号で記録する。

◎…「子供の姿の例」にあるような姿が十分に見られる→内容が身に付いていると判断
○…「子供の姿の例」にあるような姿が見られつつある→内容を身に付けつつあると判断
△ …「子供の姿の例」にあるような姿は、見られない→内容がほとんど身に付いていないと判断

これが終了したら、同じことを次の段階（右隣の枠）についても行う。

実態把握の終了については、中学部の生徒は、小学部１段階から始めた場合には、△が２回続いたときとする。小学部の児童は小学部３段階までとする。また、中学部の生徒で初めて実態把握を行う場合は、小学部１段階の様子は既に見られないことも予想される。その場合はその生徒の実態に合わせて、例えば小学部３段階から実態把握を始めて、その前の段階は◎とする。

４　他の事項の実態把握をする

一つの事項について終了したら、他の事項（他のページ）についても、同様の手順で実態把握を行う。

※　この作業により、子供が各事項でどの段階にいるかが明らかになる。

５　「実態把握結果一覧」により国語科（知識及び技能）における実態を確認する

全ての事項についての実態把握が終了したら、表計算ソフトを利用し、各結果を入力すると「実態把握結果一覧」に反映されるので、国語科（知識及び技能）における実態の全体像を確認する。

以上のような手順により実態把握を行った後は、以下に示すような手順により、具体的な指導内容を設定し、授業構想へとつなげていく。

Ⅱ　実態把握から具体的な指導内容の設定・授業構想までの手順

１　取り扱う内容の候補を見付ける

（学習状況を把握し、取り扱う内容を絞っていく）

「実態把握結果一覧」を参照し、「◎」が続いた後の最初の「○」や「△」が付いた内容をその子供の指導内容の候補とする。これは、その子供の発達段階に適した内容と考えられるからである。

※「◎」とした内容を候補とする際には、習熟や定着を図ることをねらうなど、指導の目的を明確にしておくことが大切となる。

２　具体的な指導内容を設定する

（「指導内容の例」を参照する）

取り扱う内容の候補が決まったら、その中のいくつかを組み合わせて、具体的な指導内容を設定する。このとき「指導内容設定に生かす実態把握表（本表）」にある「指導内容の例」を参考に、個々の児童生徒に合わせた具体的な指導内容を設定していく。

３　授業構想をする際の配慮事項を確認する

（「指導につながる留意点」を参照する）

具体的な指導内容を設定し、授業構想をする際には、「指導につながる留意点」の欄を参考にし、指導上の留意点を確認する。

知識及び技能　言葉の特徴や使い方に関する事項

言葉の働き

事項	言葉の働き				
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階
内容	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。
内容の捉え	・日常生活で繰り返される出来事や興味や関心のある事柄について、教師など身近な大人の話し掛けに耳を傾け、人との関わりの中で言葉が用いられていることに注意を向けられるようになり、やりとりを繰り返す中で、「ママ」や「リンゴ」などの言葉と事物が一致させられるようになってきたり、アーウーなどの自分なりの表現で相手に要求が伝わることで、心地よい感情をもったりできるようになること。	・普段の生活で接することが多い担任や親などとの関わりから、言葉を用いることで、自分が感じた気持ちや要求などが相手に伝わることを感じることができるようになること。	・言葉が、事物の内容、気持ちや要求を表していることを感じることを踏まえ、物事の内容を表す言葉の働きに気付けるようになること。 ・教師や保護者との簡単な日常の会話の成立や読み聞かせの理解を通して、事柄の説明を理解できるようになること。	・日常的に用いている言葉には、出来事や事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと	・日常的に用いている言葉には、思考や感情を表す働きがあるということに気付くこと。
子供の姿の例	**①スプーンのような毎日使う物について、名前と物が一致している。** （教師との言葉のやり取りの中で、徐々に言葉と事物が一致していく。） **②おもちゃなどの欲しいものがあったときに教師を見るなどして「アーアー」などと声を出し、要求がかなうと教師を見たり笑顔になったりする。** ◎2つの内1つができている。 〇2つの内1つがだいたいできている。	**相手に欲しいものの名前を言って取ってもらったり、「やだ」「ちょうだい」などの言葉で、自分の気持ちを伝えるなど、簡単な言葉で自分の気持ちや要求を伝えている。** （言葉を発することで自分の気持ちや要求が伝わったことを実感している。）	**読み聞かせの言葉を聞いて、「おばあさん、洗濯に行った」など、登場人物の名前だけでなく、事柄にまで気付いている。** （読み聞かせを聞いて話の内容に注目することを通して、言葉は物事の内容を表すことに気付く。）	**「昨日は〇〇と△△して遊びました」などと、言葉で過去の出来事を話している。** （言葉は内容や経験したことを表現したり伝達したりすることに気付く。）	**友達の意見を聞いて、賛成や反対を表明したり、「楽しかった」「〇〇だと思う」などのように自分の気持ちや考えを発表したりする。** （相手の話から、相手の考えに気付いたり、自分がどうしたいのかなど、自分の感情について伝える。）

実態把握の結果　身に付いている ◎　身に付けつつある 〇　ほとんど身に付いていない △

学部学年	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	周囲の人の会話に注意を向けること 言葉と事物の一致／自分なりの表現で伝えること	様々な人の話し言葉に慣れること 言葉が気持ちを表していることを感じること	言葉で様々な物事を伝えることができること	過去の出来事／経験したこと	自分の考えや気持ち 相手の考えや気持ち
指導につながる留意点	・言葉のやり取りを通して、言葉と事物との一致が少しずつ図れるようにする。 ・自分なりの表現を大切にし、これを繰り返す中で要求が相手に伝わると心地よいと感じられるようにする。 ・日常生活や遊びの中で教師の話し掛けに振り向いたり、応じたりすることを繰り返す中で、相手に対して音声模倣などによる発声や発語によって自分なりの表現ができるようにすることを大切にする。	・生活の中で関わる様々な人の話し言葉、テレビやラジオなどの音声の口調や速度に聞き慣れることを大切にする。 ・教師との関係から子ども同士の関係に広がっていくようにする。 ・言葉を用いることで、自分が感じた気持ちや要求などが相手に伝わることを感じられるようにする。 ・児童と教師、児童同士が関わり合う中で生じる感情や要求、挨拶や質問などの言葉を重視し、その言葉を繰り返して印象付けたり、言葉の表す意味と行動などとを結び付けたりして、言葉の働きの気付きにつながるような指導が重要となる。	・言葉には物事の内容、気持ちや要求を表す働きがあることを感じるようにする。 ・言葉は物事の内容を表す働きがあることに気付くようにする。	・身近な大人や友達との言葉のやり取りを通して言葉が事物の内容の他に目に見えないこと（出来事や経験）も表すことができることに気付けるようにする。	・「考えたことや思ったことを表す働き」とは、思考や感情を表出する働きと他者に伝える働きの両方を含むことに留意する。 ・日常生活の中で周りの人と言葉を用いてやり取りすることで、自分の思いや考えをまとめたり、自分が考えたことや思ったことを周りの人に表現したり伝達したりする経験を重ねることが大切となる。
解説のページ	p83	p89	p95	p261	p269

小学校との関連	―	―	小学校1、2年〇言葉の働きp42	小学校1、2年〇言葉の働きp42	小学校3、4年〇言葉の働きp76

知識及び技能　言葉の特徴や使い方に関する事項

話し言葉と書き言葉①

事項	話し言葉と書き言葉				
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階
内容	－	－	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	(イ)発声や声の大きさに気を付けて話すこと。	(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。
内容の捉え	－	－	・背筋を伸ばし、声を十分出しながら落ち着いた気持ちで話すことや、正しい発音のために、唇や舌などを適切に使うことを示している。	・相手に内容を正確に伝えるために、相手が十分聞き取れるように発声や声量を調節して話すこと。	・話している内容が聞き手にはっきりと聞き取れるような発声や発音をしたり、音声が明瞭に聞こえる速さや相手に声が届く音量などに注意したりして話すこと。
子供の姿の例	－	－	**会話をする際、背筋を伸ばし、相手に伝わりやすい発音で話すことができる。** (背筋を伸ばして十分な声量で、正しい発音で話している。) ※構音障害や肢体不自由等機能的な障害がある場合を除く。 ◎いつも聞きやすい話し方で音読や会話をしている。 ○姿勢や口形などを指導する必要があるが、できていることもある。	**相手が聞きにくそうにしているときに** **・声量を変えている。** **・言い直している。** (相手に内容が正確に伝わるように発声や声量に注意して話している。) ◎相手の反応を見ながら自分で適した音量、話し方にすることができる。 ○教師が何度か聞き返せば、気付いて適した音量、話し方にすることができる。	**○初めての相手にも伝わるような、発声や発音で話している。** **○相手に伝えようと、ゆっくり話している。** **○相手との距離がある時に、大きな声でゆっくり、はっきりと話している。** (相手がはっきりと聞き取れるような発声や音量で話している。)

実態把握の結果　身に付いている ◎　身に付けつつある ○　ほとんど身に付いていない △

学部学年	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	－	－	話すときの姿勢 唇や舌の使い方	声量の調節 正確に伝えるための発声	相手との距離に合わせて声の大きさを変えること 相手に分かりやすい適度な速さで話すこと
指導につながる留意点	－	－	・発声をしやすくしたり明瞭な発音をしたりすることにつながるよう取り扱う。 ・「背中をピン」といった言葉掛けや正しい姿勢を示したイラストなどで児童に分かりやすく伝える。	・相手に内容を正確に伝えるために、姿勢や口形などに注意して話すことに気付けるようにする。	・内容がはっきりと聞き取れるような発声や発音、音声が明確に聞き取れる速さ、相手に声が届く音量など、相手により伝わりやすくするために使えるようになることを大切にする。 ・朝の会や発表会練習等、具体的な場面での指導。
解説のページ	－	－	p95	p262	p269

小学校との関連	－	－	小学校1、2年 ○話し言葉と書き言葉 p42	小学校1、2年 ○話し言葉と書き言葉 p42	小学校1、2年 ○話し言葉と書き言葉 p42

事項	話し言葉と書き言葉②				
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	小学部4段階	中学部2段階
内容	－	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。
内容の捉え	－	・自分や友達の名前や絵本などに出てくる動物の名前など、身近な事物や事象を表す平仮名を読むこと。	・促音や長音などが含まれた、日常生活に使われている語句の読み方。 ・平仮名の読み方 ・片仮名の読み方 ・日常生活に使われている漢字の読み方	・日常生活や社会生活で用いられる語句や文、文章を読んだり書いたりすることを通して、長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を身に付けていくこと。	・長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞を、文や文章の中で正しく使うこと。
子供の姿の例	－	**校時表にある「おんがく」「さんすう」などの平仮名やよく目にする看板（例：〇〇すし）を読んでいる。** （自分や友達の名前が書かれた平仮名を読んで、それがそれぞれの人の名前を指していることが分かるなど、文字の塊として読んでいる。）	**絵本や易しい読み物、わらべ歌、テレビやコンピュータの画面に出てくる促音や長音の含まれた語句や短い文を読んでいる。** (例えば、「おじいさん」と「おじさん」と書かれた平仮名カードを区別して読める（長音)) (「がっこう」、「もっきん」の平仮名を見て、「っ」の箇所を正しく読める(促音) (「ノート」「カレンダー」のカタカナを見て「ー」の箇所をのばして読める(長音)) (「サッカー」、「コップ」のカタカナを見て「ッ」の箇所を正しく読める(促音)) 平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方 **（平仮名で書かれた五十音を読める。）** **（片仮名で書かれた五十音を読める。）** **（生活に身近な漢字が20程度読める。例：中、上、男、子、女、足、手、口、遠足、大きな、学校など。）**	**「おかあさん」（おとうさん、おじいさん、おばあさん）などの長音を含んだ単語を聞いて、正しい表記で書いている。（長音）** **「がっこう」、「もっきん」などの促音を含んだ単語を聞いて、正しい表記で書いている。（長音）** **「ノート」「カレンダー」などの長音を含んだ単語を聞いて、正しい表記で書いている。（長音）** **「サッカー」、「コップ」などの促音を含んだ単語を聞いて、正しい表記で書いている。（促音）** **「じどうしゃ」「ちゃわん」などの拗音を含んだ単語を見て、「ゃ」の箇所を正しく読んでいる。また、それらを聞いて、正しい表記で書いている。（拗音）** **「プリン」「パン」などの撥音を含んだ単語を言葉を見て、「ん」の箇所を正しく読んでいる。また、それらを聞いて、正しい表記で書いている。（撥音）** **「あしたは、ブランコをしに、こうえんへいく。」の文の助詞を正しく読んでいる。また、それらを聞いて、正しい表記で書いている。（助詞）** （日常生活や社会生活で用いられる語句や文、文章を読んだり書いたりすることを通して、助詞の「は」「へ」及び「を」について正しい読み方や書き方を知る。）	**長音、拗音、促音、撥音、助詞などを正しく使って一言日記や感想文を書いている。** **※　文の内容や質を問うものではなく、あくまでも「長音、拗音、促音、撥音、助詞」について正しく読み書きしていることで判断する。**

実態把握の結果　身に付いている ◎　　身に付けつつある ○　　ほとんど身に付いていない △

学部学年	―	―	―	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	－	平仮名のまとまりを捉えて読むこと 音節分解 平仮名（清音・濁音…）	促音の読み方／長音の読み方 平仮名の読み／片仮名の読み	長音の読み方・書き方、拗音の読み方・書き方、促音の読み方・書き方、撥音の読み方・書き方、助詞の「は」「へ」「を」の読み方、書き方	長音、拗音、促音、撥音、助詞を正しく使って文や文章を書くこと 文や文章に含まれる長音、拗音、促音、撥音、助詞を正しく読むこと
指導につながる留意点	－	・「日常生活でよく使われている平仮名」とは、児童が、日常の学校生活の中で見たり使ったり触ったりしている、身近な事物や事象を表す平仮名を指している。学習に際しては、自分や友達の名前や絵本などに出てくる動物等の名前を表す平仮名から扱うことが考えられる。 ・指導の初めは、一音節を扱うことよりも、単語をまとまりとして捉えて学習することが有効である。例えば「りんご」ならば「り・ん・ご」と一文字ずつ捉えるのではなく、「りんご」の三文字をまとめて捉えるようにするなど、平仮名の存在に気づけるようにしていく。 ・音節に気付くようにするために、語のまとまりとして平仮名で書かれたものを扱いながらも、教師が拍を取るように手を叩くなどして音節の存在の気付きにつなげることが大切である。 ・書くことにつなげるために、はじめは読むことから指導する。	・平仮名や片仮名は、五十音のほとんどを読めるように指導していく。 ・子どもの生活に身近で簡単な漢字を取り扱うようにしていく。 ・身近な単語の他、「おじさん」と「おじいさん」のような似ている単語についても学習することで、長音と清音の違いを捉えやすくするなど工夫して指導する。拗音なども同様に工夫して指導する。 ・平仮名・片仮名を扱う際には、五十音の順に「あ」から始めることにこだわらず、自分の名前や親しみのある絵本に関連するものから学習に取り組むなど、子どもが主体的に学習に取り組めるようにする。	・日常生活や社会生活で用いられる語句や文、文章を読んだり書いたりする中で、『小さい「ゅ」』が付いたときの読み方に気付くなど、拗音などの特殊音節の規則性に気付き、身に付けられるようにしていく。 ・助詞の「は」「へ」「を」について学ぶ際は、視写や聴写を取り入れるなど、繰り返し学ぶ機会を設けるようにする。	・中学部1段階までで学んだことを総合して、文や文章の中で長音、拗音、促音、撥音、助詞を正しく読み書きできるようにする。 ・各領域における学習を積み重ねることを通して学習を定着させるようにする。
解説のページ	－	p89	p95	p262	p269
小学校との関連	－	－	小学校1、2年 〇話し言葉と書き言葉 p42	小学校1、2年 〇話し言葉と書き言葉 p42	小学校1、2年 〇話し言葉と書き言葉 p42

知識及び技能　言葉の特徴や使い方に関する事項

語彙

事項	語彙				
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階
内容	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	(エ) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。
内容の捉え	・身近な人との関わりの中で様々な言葉を聞くこと。 ・音声の高低や抑揚などの違いによる意味の違いに触れること。 ・実際の事物などを見たり触ったりして実感をもちながら、言葉と事物とを結び付けていくこと。 ・絵などを用いて生活経験からいろいろなことを想起したり、それらを言葉と結び付けて表現したりしていくこと。	・身近な人との会話を通して、物の名前や動作に関する言葉、物の様子を表す言葉などを聞いたり、使ったりすること。	・ある言葉に対する同義語や類義語、対義語などの語句と様々な意味関係にある語について、ある語を中心とした関係に気付くこと。 （犬や猫は動物というまとまりでは同じ言葉の仲間であることやお母さんに対するお父さんは、家族というまとまりの中で同じ言葉の仲間であることに気付くこと。）	・語句には同義語や対義語の他、上位語・下位語、同音異義語、多義的な意味を表す語句などがあることに気付くこと。 ・乗り物の仲間、食べ物の仲間など、上位語から具体的な下位語を複数答えること。 ・「家にかえる」「服をかえる」など同音異義語を使い分けること。 ・「雨」と「飴」のように、アクセントの違いによって意味が異なる場合があることに気付くこと。	・様子や行動、気持ちや性格を表す語句など、獲得した言葉の量について、人との会話や文章などを通して、その意味を理解して自分の言葉として身に付けていくこと。 ・初めて聞いた言葉の意味について、学習を通して身に付けていくこと。
子供の姿の例	**①絵本の読み聞かせに興味を示す。** **②手遊び歌等において、教師の音声の大小、高低等の違いから、雰囲気が変わることに気付いたり、期待している様子がある。** **③教師が犬をなでながら「ワンワンだね」と伝えると、「わんわん」とまねることがある。** **④犬や猫等のイラストを見て「ワンワン」など、形態が似た動物の総称として答えることがある。** （身近な人との関わりの中で、音声には意味があることに気付く。）	**①教師が話す「立って」「座って」などの生活に身近な言葉の意味だけで、その言葉に沿った活動をする。** **②「スプーン」「牛乳」など毎日目にする物の名前を言う。** **③暑い日や体育のあとなどに「暑い」と言う。または、教師が「暑いね」と声かけすると「暑い」と答えたり、納得した様子であったりする。** （身近な人との会話を通して、物の名前や動作などいろいろな種類の言葉を聞いたり、自分でも話したりする。）	**①教師が「知っている動物を教えて」と質問したときに、動物というカテゴリーを捉えて、「犬・猫・猿」などと数個答えている。** （言葉を意味のまとまり(カテゴリー)で捉えている。） **②「暑い、寒い」「明るい、暗い」など生活に身近な対義語、「いっぱい」「たくさん」などの同義語を文の中で使っている。** （同義語、類義語、対義語を文や会話の中で正しく使っている。）	**①同音異義語などを文や文章の中で正しく使っている。** （言葉を意味のまとまり(カテゴリー)で捉えて使っている。） **②「橋」と「箸」、「雨」と「飴」などの言葉を会話の中で意味に合うアクセントで話している。** （アクセントによって意味が異なる語句を文や会話の中で正しく使っている。）	**①教師や友達と伝え合う際に「うれしかった」「楽しかった」「悲しかった」などの自分の気持ちを話したり、書いたりしている。** **②雨の勢いがすごいときに「雨がザーザー降っている。」「雨が激しく降っている。」など様子を表す言葉を付けて話したり、書いたりしている。** **③「早く食べたい。」「一緒に行こうよ。」など行動を表す語句を日常生活の中で話したり、書いたりしている。** **④作文などに内容が分かるようなその時の様子を書いている。** （教師や友達と会話をする際や文章の読み書きの際に新しく身に付けた語句を使って、内容を深めて表してている。）

実態把握の結果　身に付いている ◎　　身に付けつつある ○　　ほとんど身に付いていない △

学部学年	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	言葉のもつ音やリズムの違いに気付くこと 身近な言葉と絵カード等を一致させること	物の名前／動きを表す言葉／様子を表す言葉	相互に関係のある語句(動物や果物の名前を表す語句/色や形を表す語句／同義語／類義語／対義語	同義語や対義語／上位語／下位語／同音異義語／多義的な意味を表す語句／同音異義語	事柄や人物などの様子や特徴を表す語句／人物などの行動や気持ち、性格を表す語句／語彙を増やす
指導につながる留意点	・教師や友達と一緒に声を出す、手を叩いて体感するなどして、言葉のもつ音やリズムに意識を向けたり、気付いたりしやすくするような関わり方を工夫する。 ・児童が、身近な人との関わりの中で、何かを思い描いたり、それを表現したりすることで心地よい感情をしっかりと味わい、表現したい気持ちを育てる。 ・児童の自由な表現を受け止め、それらを少しずつ言葉で表現してくようにする。	・徐々に場面や状況に応じて、名詞、動詞、形容詞を交えて教師が話し掛けるなどして、児童が聞いたり使ったりする言葉を自然に増やしていくようにする。	・言葉は、例えば動物を表す言葉のように、相互に関係のある語句として一つのまとまりを構成していることを捉えさせるようにする。（例　果物の名前、色、形など） ・使用する語句の範囲を広げながら、語句相互の意味関係を理解することで、児童が、自分の語句を豊かにしていくようにする。 ・聞いたり読んだりする際に新しい言葉に着目することや、話したり書いたりする際にいろいろな表現を使うようにすることが有効である。	・語句同士の意味の関係（類義、対義など）を理解するようにする。 ・アクセントによって意味が違う語があることを知るようにする。	・様々な人との関わりの中で聞いたり話したり、文章の中で書いたり読んだりすることを通して、自分の語彙として身に付けていくようにする。 ・指導に当たっては、例えば、聞いたり読んだりする際に新しい言葉に着目することや、話したり聞いたりする際にいろいろな表現を使うようにすることが有効である。
解説のページ	p83	p89	p95	p262	p269

小学校との関連	―	―	小学校1、2年　○語彙　P46	小学校1、2年　○語彙　P46	小学校3、4年　○語彙 P81

事項	文や文章				
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階
内容	―	―	（オ）文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	（オ）主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	（オ）修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。
内容の捉え	―	―	･「僕はリンゴを食べた」「お父さんがリンゴの皮をむいた」のように、主語と述語を適切に対応させること。 ･文の中で主語が変わると、動作･状態･結果の主体が変わることが分かること。 ･同様に、述語が変わると動作･状態･結果が変わることが分かること。 ･助詞が変わると、文の意味に違いが出ることが分かること。	･係り受けを理解して主語と述語を正しく使って会話をしたり、文章を書いたりしている。 ･会話や文章の中で使われる、順接、逆接、原因理由などの接続語を理解すること。	･修飾語が何を詳しくしているのかを理解して文や文章の内容を理解したり、表現したりすること。 ･物事を指し示す言葉を正しく理解したり、表現したりすること。
子供の姿の例	―	―	**①簡単なイラストや写真を見て、「〇〇が△△している（した）」のように、主語と述語の正しい係り受けで話をしている。** **②「先生が話す」「先生に話す」など、助詞の違いに気付き、聞き分けている。** **③助詞を使い分けている。** （主語、述語、助詞を適切に使っている。）	**①「僕は、お母さんが作ったお弁当が大好きです」といったような、正しい係り受けで書いたり話したりしている。** （主語と述語の係り受けを理解して正しく使っている。） **②生活の中で「だけど」「だから」などの接続語を正しく使っている。** （接続語の働き（順接・逆接・原因理由など）を理解することで前後の文の関係を理解している。）	**①「青いシャツで、黒いズボンの男の子はどの子ですか？」という問いに対していくつかある絵の中から正しいものを選んでいる。** （修飾語が文の中でどこをどのように詳しくしているのかを理解して正しく使う。） **②「こそあど」の各語が事物を指し示すということを理解している。** **教師から「このペン」「あのペン」と話し掛けられたときに、「この」と「あの」が意味する距離の違いを理解して、その距離に目線を送っている。** **（「あの車見たことある！」のように、自分から指し示す物との距離に応じて、「これ」「それ」「あれ」を適切に使っている。** （こそあど言葉を正しく理解している。）

実態把握の結果　身に付いている ◎　　身に付けつつある ○　　ほとんど身に付いていない △

学部学年	―	―	―	―	―	―	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	―	―	主語や述語が変わると文の意味が変わること／助詞が変わると文の意味が変わること	主語と述語の係り受けを理解すること／接続語の役割を理解すること(だから、しかし、でも、あとね、なぜかというとなど)	修飾語と被修飾語／こ･そ･あ･ど言葉
指導につながる留意点	―	―	･具体的な場面や挿絵を用いて「僕がパンを食べる」の「僕が」が「妹が」に変わると意味が変わるように、主語が変わると動作の主体が変わって、文の意味が変わることを捉えられるようにする。 ･同様に、「僕がパンを食べる」の「食べる」を「作る」に変えると動作の内容が変わることを捉えられるようにする。 ･主語にあたる部分を顔写真、述語にあたる部分を走る、蹴るなどの絵にして主述の学習をすることが考えられる。 ･主語と述語が適切な係り受けの関係となっていることが、伝えたいことを相手に正確に伝える上で重要であることに気付くようにすることが大切である。	･絵カードなどを使って主語と述語を捉えて内容を把握することで、主語と述語の関係を捉えられるようにする。 ･文や文のつながりや関係性を理解するために、二つの文を並べて接続語を考えるようなことが考えられる。	･会話や物語、説明文にでてくるこそあど言葉が、文の内容をまとめて指し示していることを理解できるようにする。 ･具体物を指し示すときに使うこそあど言葉について、距離感や話し手の位置によって変化することを理解できるようにする。ただし、「これ」と「それ」は指し示すものは同じでも両者からの距離、両者の立ち位置（指し示すときの基点）によって使い分けが必要となる。
解説のページ	―	―	p96	p262	p269

小学校との関連	―	―	小学校1，2年〇文や文章p47	小学校3，4年〇文や文章p82	小学校3，4年〇文や文章p82

知識及び技能　言葉の特徴や使い方に関する事項

言葉遣い

事項	言葉遣い				
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階
内容	－	－		(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。
内容の捉え	－	－	－	・丁寧な言葉と普通の言葉を相手や場面に応じて使い分けることに気を付けて話すこと。	・相手や目的を意識して表現する際などに、敬体と常体との違いについて注意しながら書くこと。 敬体…文末が「です」「ます」又は「でした」「ました」などのようになる文体。 常体…文末が「である」、「だ」又は「であった」、「だった」などのようになる文体。
子供の姿の例	－	－	－	**友達との会話の場面と人前での発表の場面では、話し方を変えている。発表の場面では丁寧な言葉を使ったり、文末を敬体にしたりして話している。** （相手や場面に応じて普通の言葉と丁寧な言葉を使い分けて話す。） ◎場に応じて丁寧語を使っている。 〇声掛けされると丁寧な言葉を使うことができる。	**日記や学校での作文は常体や敬体を使うが、お礼状などの手紙は敬体で統一して書いている。** （相手や目的によって形態と常体を意識的に使い分けて書く。）

実態把握の結果　身に付いている ◎　　身に付けつつある 〇　　ほとんど身に付いていない △

学部 学年	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	－	－	－	丁寧な言い方（食べた→食べました）／発表の時の言葉使い／状況に応じて言葉遣いを変えて話すこと。	文体を統一して書くこと／敬体の文章／日記や記録を書くときの文体
指導につながる留意点	－	－	－	・丁寧な言葉と普通の言葉を相手との親疎や人数の多少、改まった場面かどうかなどに応じて実際に使うことを通して、使い分けられるようにする。 ・教科書の文末の敬体の表現に注意させて読み慣れるようにし、だんだんと自分でも使い慣れるようにしていくことが大切である。	・文章を記述する際には、相手や目的に応じて敬体と常体のいずれかを使用して書くことが多い。それを意識的に使い分けようとすることが大切である。 ・意識的に使い分けられるようになるためには、教科書等を読む際に、文末の表現に注意して読むようにするとともに、生徒が使い慣れるようにしていくことが有効である。 ・常体とは、文末が「である」「だ」となる文体である。日常生活で使う「行っちゃった」などの普通に使っている言葉は常体ではなく、例えば説明的な文章の語文末のようなものを指す。
解説のページ	－	－	－	p262	p269

小学校との関連	－	－	－	小学校1、2年〇言葉遣いp48	小学校1、2年〇言葉遣いp48 ／3、4年　〇言葉遣い　p83

知識及び技能　言葉の特徴や使い方に関する事項

音読

事項	音読				
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階
内容	－	－	(カ)正しい姿勢で音読すること。	(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。
内容の捉え	－	－	・発声しやすい姿勢、明瞭な発音になる姿勢で音読すること。	・文や文章の内容を理解したり、聞いている相手が正しく聞き取ったりすることができるようにする。	・一文一文などの表現だけでなく、文章全体の大まかな内容を捉えたり、登場人物の行動や気持ちの変化などを大筋で捉えたりしながら、音読すること。
子供の姿の例	－	－	**「大きな声ではっきり読みましょう」という指示を聞いて、(障害の状態に応じた)発声しやすい姿勢、明瞭な発音になる姿勢を取り直して音読している。**	**①朝の会での給食の献立の発表の際に聞いている友だちに向けて、聞きやすい発音、音量で話している。** (明瞭な発音で音読している。) **②平仮名のみで書かれた文を読んで、はじめは語のまとまり(区切り方)を間違えて読んでも、何回か読み直しているうちに正しい区切り方で読むようになっている** **③「ともだちと けいかくどおりに かいものをする。」を正しく読む。** (語のまとまりとして適切に区切って、言葉の響きやリズムに注意して音読している。)	**登場人物や場面に合わせての喜怒哀楽などの感情が表現される会話の文と地の文について抑揚をつけたり、読む速さ、トーン、声の強弱を変えたりして読んでいる。** (登場人物の心情や場面の内容を捉えて、それを表現するように読んでいる。また、場面が展開していくとそれに合わせて表現を工夫している。)

実態把握の結果　身に付いている ◎　身に付けつつある ○　ほとんど身に付いていない △

学部学年	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	－	－	声の出やすい姿勢や顔の向き／正しい姿勢で音読すること／	ひとまとまりの語や文として読むこと／言葉の響きやリズムなどに注意して読むこと	文章全体の大まかな内容を捉えること／登場人物の気持ちを捉えること／気持ちを込めて読むこと
指導につながる留意点	－	－	・「音読」には、自分が理解しているかどうかを確かめる働きや自分が理解したことを表出する働きなどがある。児童の集中や体力に配慮しつつ、正しい姿勢を体感させると共に、以下のような読みにつながるようにする。 ・明瞭な発音で文章を読むこと ・ひとまとまりの語や文として読むこと ・言葉の響きやリズムなどに注意して読むこと	・ひとまとまりの語や文として読むようにする。 ・言葉の響きやリズムなどに注意して読むようにする。 ・(イ)の「発音や声の大きさに気を付けて話す」ことと関連付けて指導する。 ・生徒の実態に応じて繰り返し音読する機会を設けるようにする。 ・自分の声を自分で聞きながら音読する習慣を身に付けたり、・他の人に聞いてもらったりして、聞くということを意識できるようにする。	・文章全体として、何が書かれているかを大づかみに捉えたり、登場人物の行動や気持ちの変化などを大筋で捉えたりしながら音読するようにする。 ・「いつ、どこで、だれが、なにを、どうした」をしっかりと押さえて、様子が分かるように工夫してゆっくり読ませることが有効である。 ・声に出して読み、読んでいる声をしっかりと聞くという中から、内容の理解を深める。
解説のページ	－	－	p96	p262	p269

小学校との関連	－	－	小学校1、2年○音読、朗読 p48	小学校1、2年○音読、朗読 p48	小学校3、4年○音読、朗読 p84

事項	情報と情報との関係				
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階
内容	―	―	(ア)　物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	(ア)　事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	(ア)　考えとそれを支える理由など、情報と情報の関係について理解すること。
内容の捉え	―	―	・言葉が物事の内容を示し、他者と共有することができることを知る上で、物事を時間や手順に沿って順序立てて捉えることが必要であるため、設定されている。	・複数の事柄などが一定の観点に基づいて順序付けられていることを認識すること。 ・小学部3段階にある、物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係の理解を基に、時間、作業手順、重要度、優先度などの観点に基づいた順序の関係性にまで広げていくこと。	・「理由」は、なぜそのような「考え」をもつのかを説明するものである。事物の説明や経験を相手に分かるように報告したり、それらを聞いて感想を述べたりする上で、考えとそれを支える理由を明確にすることが大切であるため、設定されている。「考え」と「理由」の関係を理解することが内容となる。
子供の姿の例	―	―	**・給食の準備の際に教師の「はじめに手を洗いましょう。次にエプロンを着ます。最後に椅子に座ります。」といった指示を聞いて、順序があることに気付いて行動しようとする。（文章を読んで同様に行動できることも同じ）** （物事を手順などに沿って捉えることで、言葉が物事の内容を示し、他者と内容を共有することができることを知る。）	**①帰りの会で「今日は、はじめに〇〇をして、次に〇〇をして、最後に〇〇をしました」のように活動を順番に発表している。」** （1日のスケジュールや経験したことを時系列で担任に伝えている。） **②「一番楽しかったことは〇〇で、次に楽しかったのは〇〇です」など、伝える内容に順位を付けて話したり、書いたりしている。**	**①自分の意見を「〇〇だから」「なぜかというと」などの言い方で理由を添えて述べている。** **②自己紹介の際に、「〇〇なので△△が好きです。」のように理由をはじめにつけて話している。** （自分の考えの理由を相手に分かるように報告している。） **③友だちの発表を聞いて、〇〇だから△△なんですね。と言っている。** （相手の意見とその理由を理解している。）

実態把握の結果　身に付いている ◎　　身に付けつつある ○　　ほとんど身に付いていない △

学部学年	―	―	―	―	―	―	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	―	―	指示書の理解／指示を聞いて、順番を理解すること	時系列で話すこと、書くこと／作業手順の理解／重要度、優先度の理解	考えと理由／自分の考えを分かりやすく伝えること
指導につながる留意点	―		・一つ一つの情報が単独であるばかりでなく、関係して存在することがあることに気付けるようにする。 ・物事の始めと終わりなど、事柄の順序の関係を理解するとは、複数の事柄などが一定の観点に基づいて順序付けられていることを認識することである。この関係には、例えば、時間、作業手順、重要度、優先度などの観点に基づいた順序が考えられる。 ・はじめに、終わりになど分かりやすいものから始めて、その関係性を理解できるようにし、中学部1段階へとつなげていく ・与えられた情報には関連があることをするようにするために「はじめに、次に、最後に」などの言葉を使うようにすること有効である。	・複数の事柄などが一定の観点に基づいて順序付けられていることを認識するようにする。 ・時系列の指導に当たっては、例えば、人の話を聞いたり文や文章を読んだりしたことを正しく捉えたり、自分が見聞きした事柄や経験を相手に分かりやすく伝えたりするために、「いつ」誰が何をしたなど、内容の時間的な順序に気を付けながら情報を整理することなどが考えられる。	・自分の考えとその理由を相手に分かるように伝えるようにする。 ・友達の意見とその理由を聞いて感想を述べるようにする。 ・授業に当たっては、子どもが意見を述べた際に理由も言えるように指導する。
解説のページ	―	―	p96	p262	p270

小学校との関連	―	―	小学校1、2年 〇情報と情報との関係　p50	小学校1、2年 〇情報と情報との関係　p50	小学校3、4年 〇情報と情報との関係　p85

事項	情報の整理				
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階
内容	―	―	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	―	（イ）必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。
内容の捉え	―	―	・目的をもって図書資料を読むために、図書を用いた調べ方を理解し、調べること。	―	・会話やインタビューなど相手の話の中の必要な箇所を捉えてメモをすること。 ・自分と相手の意見を比べて、それに対する自分の意見を言うこと。
子供の姿の例	―	―	**①目的地の情報が載っている本を探して、必要なことを調べて、目的地での活動を決めようとしている。** **②目的地の情報が載っている本を探して内容を読んでいる。** （分からないことや興味があることについて調べようと考えた際、必要な本を探して調べようとする。）	―	**①必要な情報を調べる際に、ノートなどに関連する事柄をメモしている。** **②自分の発表のために自分が伝えることを箇条書きでメモしている。** （情報を集めたり、発表したりする際に必要な事柄を選んで書き留める。） **③職場見学や帰りの会などで必要なことを単語レベルに置き換えてメモを取っている。** （情報に含まれている必要な事柄を聞き取って、あとで思い出すのに十分な短さにしてメモを取る。） **④話合い活動で〇〇くんの意見と同じ、又は違うと発表している。** （相手の意見に対する自分の意見を言っている。）

実態把握の結果　身に付いている ◎　　身に付けつつある ○　　ほとんど身に付いていない △

学部学年	―	―	―	―	―	―	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	―	―	―	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	―	―	興味のある本を見つけること／本の探し方（図書室）	―	語や語句を選んで書き留めること／自他の意見を比べて、同じところや違うところを見付けること。
指導につながる留意点	―	―	・児童が分からないことや興味のあることを見つけた際、それに関連する情報に簡単にたどり着けるよう、学級文庫の充実や図書館利用の経験がもてるようにする。 ・手にとった本を見たり読んだりすることで、分からないことや興味のあることについて調べるようにする。	―	・情報を集めたり、発信したりする場合に落としてはいけない語や語句を選んでメモとして書き留めるようにする。 ・書き留める際に、目的を意識して必要な語句を判断するようにする。 ・話や文章の内容を網羅的に書き出したり、機械的にメモの取り方を覚えたりするのではなく、必要な情報は何かということを念頭に置きながら、落としてはいけない語句を適切に捉え、それらを書き留めることが重要となる。 ・自分の考えと相手の考えの同じところや違うところを見付けて比べることなどを通して、相手の意見を理解して、必要に応じて意見を述べるようにする。
解説のページ	―	―	p96	―	p270

小学校との関連	―	―	―	―	小学校3、4年　〇情報の整理　p86

事項	伝統的な言語文化①				
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階
内容	(ア)昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	(ア)昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	(ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	(ア)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	(ア)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。
内容の捉え	・昔話などの読み聞かせやわらべ歌や言葉遊びなどを通して、独特の語り口調や言い回しのリズムや言葉の響きを感じたり楽しんだりして親しむこと。 ・児童が伝統的な言語文化の側面からも言葉に触れ、感じたり楽しんだりすることを重視している。	・昔話を基にした本や文章、童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、昔話の語り始めの一部を真似したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ・小学部1段階の内容を踏まえ、昔話を基にした本や文章、童謡の歌詞などまでに対象を広げ、児童が伝統的な言葉の響きやリズムに触れ、親しむことを重視している。	・児童が伝統的な言語文化としての古典に出会い、親しんでいく始まりとして、昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、真似をしたり、簡単な劇や音読を発表し合ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ・小学部2段階の内容を踏まえ、神話や伝承などまでに対象を広げ、児童が伝統的な言語文化に触れ、親しむことを重視している。	・俳句の拍や音としてのリズムを聴いたり、自分でも作ったりして、自然や季節の情景を表した言葉や言葉の響き、リズムに親しむこと。 ・小学部3段階の内容を踏まえ、俳句までに対象を広げ、生徒が伝統的な言語文化に触れ、親しむことを重視している。	・内容を理解しやすい文語調の短歌や俳句を音読したり、暗唱したりして、言葉のリズムや音の響きに親しむこと。
子供の姿の例	**昔話やわらべ歌などの、独特の語り口調や言い回しのリズムや言葉の響きを感じて楽しんだり、昔話の一場面を簡単な言葉で唱えたり、動作化したりして楽しんでいる。例：「おむすびころりん、すってんてん…」「ずいずいずっころばし」などを聞くと、体全体でリズムを取ったり、動作化したりしている。** （昔話などの読み聞かせを聞いて、独特の語り口調や言い回しに含まれるリズムに言葉の響きやリズムを感じる。）	**「むかし、むかし」といった、昔話の読み聞かせが始まると、「あるところに、おじいさんと…」などと言い回しを言って楽しむなど、言葉の響きやリズムに親しんでいる様子がある。** （昔話などを基にした本や童謡の歌詞などの始めの一部を真似して言葉の響きやリズムに親しむ。）	**昔話などの音読を聞いて一部の台詞の場面の真似をしたり、劇などで演じて楽しんでいる。** （昔話などを基にした物語の真似をしたり、簡単な劇をしたりして言葉の響きやリズムに親しむ。）	**俳句を音読するときに、五・七・五の言葉のリズム使って読んでいる。** （学習を通して自分でも五・七・五のリズムで俳句を作ったり読んだりしている。）	**文語でも意味が分かりやすい短歌や俳句を音読したり暗唱したりしている。** **例　古池や　蛙とびこむ　水の音／柿くへば　鐘が鳴るなり　法隆寺　など** （文語調になっても意味がよく分かる短歌や俳句を音読したり、暗唱したりして言葉の響きやリズムに親しむ。）

実態把握の結果　身に付いている ◎　身に付けつつある ○　ほとんど身に付いていない △

学部学年	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	・昔話の語り口調に親しむこと／やわべ歌遊びのリズムに親しむこと	昔話や童謡の言葉の響きやリズムを感じること	昔話や神話に出でくる話言葉／	俳句の言葉の響きやリズムに親しむこと／俳句の音読や暗唱	易しい文語調の短歌や俳句の言葉の響きやリズムに親しむこと
指導につながる留意点	・昔話（我が国に古くから伝わる物語）のほか、わらべ歌や言葉遊びなどを複数扱い、独特の語り口調や言葉の響きやリズムを感じとれるようにする。物語の一場面を簡単な言葉で唱えたり、動作化したりして、「昔話など」に親しむようにする。	・物語の一部を真似したり、唱えたり、動作化したりして自分で楽しむようにする。 ・小学部第1段階の内容を踏まえ、童謡などにまでその範囲を広げ、言葉の響きやリズムに親しめるようにすることが大切である。	・地域が育んできた言語文化に触れることも大切にする。例えば、地域の人々による民話の語りを聞いたり劇を行ったりするなど、言語活動を工夫することなどが考えられる。 ・「昔話」は、「むかしむかし、あるところに」などの言葉で語り始められる空想的な物語であり、特定又は不特定の人物について描かれる。「神話・伝承」は、一般的には特定の人や場所、自然、出来事などと結び付けられ、伝説的に語られている物語である。	・児童の発達の段階や初めて古典を学習することを考慮し、易しく書き換えたものを取り上げることが必要である。 ・分かりやすい単語、身近な情景に触れて、言葉の響きやリズムに親しむようにする。 ・俳句などを聞いたり、作ったりすることを通して、それらがもつ言葉の響きやリズム、言葉が表す情景を楽しむ文化があることも知るようにする。 ・リズムだけでなく、情景の理解も図るようにする。 ・授業の主たる目的を俳句を作ることとせず、言葉の響きやリズムに親しむことにして、扱うことも大切である。 ・生徒の実態に合わせて、口語のものの方が望ましい場合もある。	・易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりして文語の調子に親しむ態度を育成するようにする。 ・意味内容が容易に理解できる短歌や俳句を選ぶようにする。 ・教材としては、響きやリズムを体感できるよな作品や親しみやすい作者の作品を選んだり、代表的な歌集などから内容の理解しやすい歌を選ぶようにする。 ・簡単な文語の俳句については小学校3、4年生の教材が参考になる。
解説のページ	p83	p89	p96	p263	p270

小学校との関連	－	－	小学校1、2年 ○伝統的な言語文化　p52	小学校3、4年 ○伝統的な言語文化　p88	小学校3、4年 ○伝統的な言語文化　p88

事項	伝統的な言語文化②				
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階
内容	(イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	(イ)遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	(イ)出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	(イ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知ること。	(イ)生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。
内容の捉え	・声や言葉を使った遊びや関わりなど(例　参照)を通して、節を付けて歌ったり動作化したりするなどして、言葉の響きやリズムを体感したり、楽しんだりすること。 例　呼びかけに対する応答遊び、音まね・声まね遊び(擬声語や擬態語等を使った遊び)など	・わらべ歌遊びなど、節を付けたり動きを併せて行う遊びややり取りの中で、言葉によるいろいろな表現に触れたり、自分でも表現したりすることなどを経験し、言葉による表現に親しむこと。 ・言葉を用いること自体を楽しむこと、そのよさを感じること大切にする。	・教師や友達などと出来事や経験について伝え合う活動を通して、同じ出来事や経験を自分とは異なる表現の仕方で伝えていることに気付くこと。(同じ出来事がいろいろな語句や別の表現で表せることに触れ、言葉のもつよさを十分に実感すること。	・年賀状や暑中見舞いといった年や季節の節目に交わす挨拶状で用いる語句や、時候の挨拶で用いる語句のように季節によって使い分ける語句があることや、その使い方を知ること。	・長い間、私たちの生活で使われてきたことわざなどについて、生徒の生活に身近なことわざなどについて、その意味を知り、日常生活でも使うなどして、様々な表現に親しむこと。
子供の姿の例	**呼びかけに対する応答遊び、音まね・声まね遊び(擬声語や擬態語等を使った遊び)などを楽しんでいる。** (声や言葉を使った遊びや関わりなどを通して、節を付けて歌ったり動作化したりするなどして、言葉の響きやリズムを体感したり、楽しんだりする。)	**手遊び歌や数え歌などを教師と一緒に節に合わせて楽しんだり、自分でも節をつけて歌ったりしている。例　「お寺の和尚さん」「どちらにしようかな」** (言葉によるいろいろな表現に触れたり、自分でも表現したりすることなどを経験し、言葉による表現に親しむ。)	**ゲームに負けたときの残念な気持ちが、悔しい、悲しい、がっかり、しょんぼり、様々な表現で表せる。友達が使った表現を自分の体験を話す際に正しく取り入れている。例：ぼくもイライラしました。** (活動の結果について異なる言葉で話し掛けられても受け入れたり、その言葉をあとで自分でも使ったりする。)	**年賀状にはどんな言葉を書くかを聞かれて、「明けましておめでとうございます」「新年おめでとうございます」といった語句を答えたり、暑中見舞いに用いる語句を聞かれて「暑中お見舞い申し上げます」などの定型の言い回しを答えることができる。** (定型の言葉で時候の挨拶が書かれた手紙を読んで、季節にあった言い回しを知り、自分でもその言い回しを使うことができる。)	**ことわざの意味を理解して、生活の中で使用している。** **(例：「ちりも積もれば山となる」、「善は急げ」、「石橋を叩いて渡る」)** (知っていることわざと同じシチュエーションで、そのことわざや標語を使える。)

実態把握の結果　身に付いている ◎　身に付けつつある ○　ほとんど身に付いていない △

学部学年	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	言葉の響きやリズムを楽しむこと	言葉による表現に親しむこと／言葉を使った遊び	意味が同じで言葉が異なる表現／別の言葉で表現すること	季節に応じた表現／年賀状の書き方	ことわざの意味／様々なことわざ
指導につながる留意点	・声や言葉を使った遊びや関わりなどを通して節をつけて歌ったり動作化したりして、言葉の響きやリズムを体感したり、楽しんだりするようにする。 例　「ずいずいずっころばし」のリズムに合わせて手遊びを楽しんだりする	・「言葉に節を付けること」や「言葉を発することと動きを一緒に行うこと」を通して、言葉による表現の授受を行うようにする。 ・わらべ歌の節の面白さを味わうようにする。 ・しりとりを通して新たな言葉に接する楽しさに触れるようにする。 ・言葉遊びの例として、かぞえうた、しりとりやなぞなぞ、回文や折句、早口言葉、かるたなどが考えられる。伝統的な言語文化に触れる観点を大切にする。	・教師や友達などと学校行事等、みんなで同じ経験をしたことについて伝え合う活動を行うようにする。その際に、自分が表現したことと同じ意味で異なる表現をした友達の意見の時に、「同じことを言っているね」などと、いろいろな表現の仕方があることに気付けるようにする。	・年や季節の節目や時候の挨拶やお礼の言葉を知るようにする。 ・年賀状や暑中見舞い等を書いたり、もらったりする経験を通して、決まった言い回しに触れるようにする。	・ことわざや標語の意味を知るようにする。 ・交通安全や火災予防など日常生活の中で目にすることの多い標語なども取り上げ、日常生活に活かせるようにすることも大切である。
解説のページ	p84	p90	p96	p263	p270

小学校との関連	―	小学校1、2年 ○伝統的な言語文化　p53	―	―	小学校3、4年 ○伝統的な言語文化p89

事項	書写①		
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
内容	（ウ）書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㋑筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	（ウ）書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ㋑写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	（ウ）書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。
内容の捉え	㋐いろいろな筆記具で線などが書けることに気付いたり、その線に意味付けをしたりすること。 ㋐自分が筆記具を持って動かすことで、線が生まれることに気付くこと。 ㋑文字を書く学習を行う基礎として、書いて表現することへの興味・関心を高めながら、書くことに親しみ、運筆への基本動作を身に付けていくこと。	㋐いろいろな筆記具（黒板や画用紙などに、チョークや鉛筆、フェルトペン、クレヨンなど）で様々な線を書くなどして、書くことに親しむこと。 ㋑写し書きやなぞり書きなどを通して、体験的に、文字の形を意識したり、正しい書写の姿勢や筆記具の正しい持ち方を身に付けること。	㋐書いたものを読む相手、書き表す素材やマス、行の大きさ、書く量などに合った筆記具を教師の助言の下に選び、文字や記号、それらを補う図や絵を書くこと。 ㋑伝えたいことがはっきりと伝わるために平仮名や片仮名の形に注意しながら整った文字を書くこと。
子供の姿の例	**㋐筆記具を探して書いている。** （身近な筆記具を手に取って線を書いたり、その線に意味付けをしながら書いたりしている。） **㋑①筆記用具をグーで握って書くだけでなく、教師の真似をしてつまんで書くことがある。** **②椅子に座り、机の上で書くことができる。** **（字（線）を書くことに慣れ、字を書くときの正しい姿勢と正しい鉛筆の持ち方を知る。）**	**㋐黒板や画用紙などに、いろいろな筆記具で縦線や横線、丸等、様々な線を書いて楽しむ。** （いろいろな筆記具を用いて線を書くこと。） **㋑①一画、又は二画程度の簡単な平仮名であれば、手本の横に正しく写し書きができる。。** **②指先で筆記具を持つなど、正しい持ち方につながる持ち方で書いている。** （写し書きやなぞり書きなどを通して、正しい姿勢で筆記具を正しく持って線を書く。）	**㋐例えば、（教師の助言の下に）作文用紙に書くときには鉛筆を、誕生日カードのメッセージを書く際には、クレヨンやフェルトペンを選ぶなど、目的に応じて筆記用具を使い分けている。** （目的に合った筆記具を用いて書こうと思った事柄を文字などで表現している。） **㋑正しい姿勢、筆記具の持ち方で平仮名や片仮名を正しくことができる。** （自分以外の人があとで読んでも内容を理解することができるように、姿勢や筆記具の持ち方を正しくして丁寧に書いている。） 文字を書いた際に、文字の形のゆがみや線の数の過不足に気付いて、書き直している。

実態把握の結果　身に付いている ◎　　身に付けつつある ○　　ほとんど身に付いていない △　　**※評価は㋐と㋑の両方が◎で◎、どちらかに○が付けば○とする。**

学部学年	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	㋐いろいろな筆記用具／書く／自由な線 ㋑書くときの正しい姿勢／筆記用具の正しい持ち方	㋐縦の線／横の線／書く対象（黒板や画用紙） ㋑書写の基本を身に付けること（文字のおおよその形）（姿勢）（持ち方）	㋐読む相手、用紙の素材、目的などに合った筆記具で書くこと。 ㋑字形に気を付けて書くこと
指導につながる留意点	㋐「いろいろな筆記具」とは、児童が身近に手にすることができるクレヨン、チョーク、筆、はけ、鉛筆、ボールペン、水性・油性ペンなどを指している。 ㋐筆記用具を用いることで線が書けることに気付けるよう、「スー」「てん、てん」など、動きに言葉を添えるなどする。 ㋐子供が書いた線に意味付けしている。例えば、「リンゴだね」などと教師が応答する。 ㋑あくまでも、書く動作の基礎となることを扱うため、この段階では、正しい所作につながるものを楽しく身に付けさせるようにする。 ㋑学習の初期の段階では、楽しい雰囲気の中で活動することを大切にする。 ㋑児童が書くことに慣れるのに合わせて、椅子に座って上体を落ち着けることなど書くことへの構えに細かい段階を含んだ、書く際の正しい姿勢や正しい筆記具の持ち方に習熟していけるようにしていく。 ㋑子どもの発達段階に合わせて筆記具の持つところを太くするなど、持ちやすくする工夫を行う。	㋐書くという機能に触れることを重視し、自分で書こうとして書いたものならば、書いた内容は文字でなくてもかまわない。ただ、その際は小学部1段階と同様に、将来的に意味を成すものにつながるように書かれたものに意味付けをするような声かけを大切にする。 ㋑次の2点を通して書く時に必要なことを体験的に理解するようにする。 ①写し書きやなぞり書きなどで文字の形を意識する。 ②正しい書写の姿勢や正しい筆記具の持ち方を理解する。 ㋑児童が興味や関心をもって取り組むことができるよう、いろいろな線の運筆や書く線の始点と終点を分かりやすくして、遊びながら書くことに取り組めるように配慮する。 ㋑運筆に親しむ中で平仮名の書写に関する興味や関心を育てるようにする。 ㋑文字を書くことの指導については、手指の機能について児童の実態を十分に把握しておく。 ㋑児童自身が文字の形を確かめながら書写できるよう以下のような工夫をする。 ①筆記具、マス目の大きさ、手本との距離等に配慮する。 ②「上から下へ」のように筆順を言語化する。 ㋑筆記具の持ち方や姿勢については自立活動との関連を図るようにする。 ㋑正しい姿勢を指導する際は、用紙を体の正面、又は正面の少し右に置くようにすると背筋がまっすぐになりやすい。	㋐「手紙を書くときには、鉛筆とクレヨンのどちらが読みやすいかな」といった教師の助言の下に、目的や条件（書いたものを読む相手、書き表す素材やマス、行の大きさ、書く量など）に合った筆記具を選べるようにする。 ㋐掲示することなどを考えて筆記具や文字の大きさを替えると読みやすくなることに気付けるようにする。 ㋑正しい姿勢や正しい筆記具の持ち方で書くようにする。 ㋑平仮名や片仮名の文字の形に注意して書くことで丁寧な文字になり、相手に伝わりやすいようにする。 ㋑文字の形を意識して書けるようになることを通して、読みやすい文字を丁寧に書こうとする態度につなぐ。 ㋑「『あ』を書いて」などと声かけすると、話し言葉書き言葉などの他の事項の学習も含まれることにもなるので、「あ」の手本を書いて「これを書いてください」など、読み方などと区別して指導することも有効である。
解説のページ	p84	p90	p96

小学校との関連	―	―	小学校1，2年　○書写　p54

知識及び技能　我が国の言語文化に関する事項

書写(中学部)

事項	書写①	
段階	中学部1段階	中学部2段階
内容	(ウ)書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ㋐姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㋑点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	(ウ)書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ㋐点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ㋑漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。
内容の捉え	㋐書いたものを自分や周りの人が読むことができるような、形の整った文字を書けるように、姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くことを。 ㋑文字の中の各点画の位置関係や長さ、向き、交わり方などに注意して整った文字を書くこと。 ㋑「点画」…文字を構成する「横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点」などのこと。	㋐1段階の「正しい姿勢、筆記具の持ち方」を踏まえ、筆順に従って書くことで、さらに整った文字を書くこと。 ㋑文や文章を書く際、文字同士の大きさのバランスをとったり、文字の中心を揃えたりして、文や文章、自分の名前等、全体を整えて書くこと。
子どもの姿の例	**㋐正しい姿勢や持ち方で筆先を注視して、自分や周りの人が読めるような文字を書いている。** (正しい姿勢、持ち方で、整った文字が書けている。) **㋑手紙など、丁寧な文字を書く場面で、「川」の三つの画を揃えて書いている。特に一画目が長すぎたり左向きになりすぎたりしないように気を付けて書いている。** (文字を構成する「横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点」などに注目して、交わり方やお互いの距離を意識して書いている。)	**㋐おおよその字形を捉え、筆順に従い、形の整った文字を書いている。** (点画を丁寧に書き、文字のおおよその形に注意しながら整った文字を正しい筆順で書いている。) **㋑自分の名前を縦書きで書く際に文字の中心を揃えて同じ大きさに見えるようにバランスを取って書いている。** (漢字と仮名、画数の多い漢字と少ない漢字の大きさを変えて、行の中心に文字の中心が来るように書くことで文全体のバランスを取ることができている。)

実態把握の結果　身に付いている◎　身に付けつつある○　ほとんど身に付いていない△　**※評価は㋐と㋑の両方が◎で◎、どちらかに○が付けば○とする。**

学部 学年	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	㋐正しい姿勢／正しい筆記具の持ち方／丁寧に書くこと ㋑点画相互の関係性などに注意して書くこと／点画の長さや向き／点画相互の接し方や交わり方／文字の形	㋐筆順(上から下へ、右から左へ)／横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点 ㋑文全体の文字のバランスに注意して書くこと/文字の大きさのバランス/文
指導につながる留意点	㋐自分や身近な人や物の名前、生活の中で見ることの多い漢字について、書くことができるようになる時期であることを考慮する。 ㋐正しい姿勢とは、背筋を伸ばした状態で体を安定させ、書く位置と目の距離を適度に取り、筆記具を持ったときに筆先が見えるようにすることである。 ㋐正面から筆先が見えない状態で書くと横からのぞき込むような姿勢になる。この状態で背筋を伸ばす指導をすると、子どもは筆先を見ないで書くようになるので、姿勢の指導をするときには、筆や手首の指導も併せて行うようにする。 ㋑横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点について、次の点に注意して書くことで平仮名、片仮名、簡単な漢字を正しく整えて書くことができるようにする。 ・点画相互の位置関係(「川」の一画目の左払いが横向きになりすぎないように書く。) ・点画の長さや向き(「にんべん」の一画目と「ぎょうにんべん」の二画目を違いを明確にして書く。) ・点画相互の接し方や交わり方(「大」の二画目が一画目に交わるまで傾かないようにして書く。) ㋑点画の始筆と終筆の書き方に注意することが文字を丁寧に書くことと深く関わるので、書き方を意識しながら確実に書けるように支援していく。	㋐点画(横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点)に気を付けて書けるように指導する。 ㋐文字の形(点画の積み重ね、関係)に気を付けて書けるように指導する。 ㋐文字のおおよその形を捉えて書けるように指導する。 ㋐筆順があること知り、筆順を守って書くと整った文字になることに気付けるようにする。 ㋑「漢字や仮名の大きさ」とは、漢字と漢字、漢字と仮名、仮名と仮名との相互のつり合いから生じる相対的な大きさのことである。画数の多い文字ほど大きく書き、画数の少ない文字ほど小さく書くと、並べたときに読みやすい文字列になる。 ㋑「配列に注意して」とは、行の中心や行と行との間、文字と文字との間がそろっているかなど文字列及び複数の文字列に注意してということである。・ ㋑次の事柄に気を付けて、相互のつり合いから生じる相対的な大きさに注意して書くようにする。 ・文字同士の相互のつり合いから生じる相対的な大きさ。 ・一文字一文字を整えること。 ㋑書き出しの位置を決めること(一画目をマスや行のどこから始めるかということ)。 ㋑行の中心に文字の中心をそろえること。
解説のページ	p263	p270

小学校との関連	小学校1，2年　○書写　p54	小学校1，2年　○書写　p55

事項	読書				
段階	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階
内容	(エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	(エ)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。	(エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	(エ)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	(エ)幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。
内容の捉え	・教師が提示した絵本や映像教材(写真やビデオ)などに対して、絵や写真に注目したり、教師と一緒に絵本に出てくる言葉や擬声語などを声に出したり、興味を示すこと。	・読み聞かせを楽しんだり、自分でも拾い読み等わしたりして、本を読もうとしたりするなど、読書に興味をもつこと。			・多様な本や文章があることを知ること。読書する本や文章の種類、分野、活用の仕方など、自分の読書の幅を広げること。
子供の姿の例	**読み聞かせを聞いて、本の中の絵を指さしたり、繰り返される効果音や台詞を自分でも話すなど、絵本に興味を示す。** (教師の読み聞かせに対して絵を指さしたり、印象的な言葉を声に出したりして絵本に興味を示している。)	**①好きな絵本を選んで「読んで」などのように依頼する姿がある。** **②絵や図鑑を見て、知っている文字を拾い読みするなど、なんて書いてあるのかを教師にたずねる等、本を読むことに興味を示している。** (読み聞かせられている本などある絵や写真に添えられている文字を読んでもらったり、拾い読みしたりすることで、そこに書いてある情報に気付いて読もうとしている。)	**①いくつかの本を手に取って読みたい本を選んだり、探したりしている。** **②本棚から自分が以前読んでもらった本や好きな動物の図鑑などを選んで読んでいる。** (知りたいことや読んでみたい絵本や内容から本を選ぶ。)	**「私は詩(物語・歴史の本)の本が好き」などと、自分が好きな本の種類を伝える。** (詩、物語、図鑑等の本の種類の違いに気付いている。)	**図書館に行って読みたい本を探して読んだり、「こんな本を借りたよ」と教師に話している。** (図書館に行って、自分の読みたい本や調べたいことに関する本を選んで読んでいる。)

実態把握の結果　身に付いている ◎　身に付けつつある ○　ほとんど身に付いていない △

学部学年	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子	年度初	年度末	内容が身に付いたときの指導の様子

以下は授業構想で使用する

指導内容の例	教師と一緒に絵本を読むこと	様々な絵本や図鑑に触れること	絵本／図鑑／様々な図書資料に触れること	物語と詩の違い／本を内容で分けること	様々な種類の本に触れること／目的に応じた本を選ぶこと
指導につながる留意点	・段階の初期では、教師との関わりを楽しみながら、少しずつ絵本の中の絵、繰り返される効果音や台詞など「本の内容」に注意が向けられるようにする。 ・「いろいろな絵本など」とは、絵本、紙芝居やペープサート、写真やビデオなどの映像教材などのことである。 ・児童が経験している生活上の出来事を題材にしたもの、物語の展開が簡単なもの、同じことが繰り返されるものは書かれている内容をイメージしやすいので、興味を持ちやすい。	・本には文字などの情報があることに気付かせるようにする。 ・絵や写真に添えられている文字からも情報を得られることに気付き、読んでもらったり、拾い読みしたりして言葉を増やす。ここで指導を「拾い読み」に偏らないように気を付ける。あくまでも読書につながる指導と捉えることが大切である。 ・「絵や写真に添えられている文字」とは、図鑑などで写真などの説明として添えられている文や文章である。 ・絵本を読む際には、教師が文字を指さし等をして、文字の認識ができるようにする。 ・絵本だけでなく、図鑑などにも興味をもつようにする。 ・教師と一緒に読める部分は読むようにする。	・読書を通して、様々な知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることのできる力の育成のためにいろいろな本に触れるようにする。 ・読書の幅が広がるように、児童が馴染みのある本を手にとるように読書環境を整える。 ・日常的に読書に親しめるようにすることが大切である。	・段階に合ったいろいろな文章を扱うようにする。 ・語句の意味などから文や文章が表している場面の情景や事柄の流れ、登場人物の心情などを読み取ることで情操を深めていけるようにすることを大切にする。 ・本を種類の違いに気付けることで、将来の図書館の利用にもつながる。	・多様な本や文章があることを知ることで自分の読書の幅を広げるようにする。 ・「いろいろな種類」とは、例えば、物語、昔話、絵本、科学的な読み物、図鑑などが挙げられる。 ・学校図書館などの施設の利用方法などを身に付けることも大切にする。
解説のページ	p84	p90	p96	p263	p271

小学校との関連	―	―	小学校1、2年　○読書　p56	小学校1、2年　○読書　p56	小学校3、4年　○読書　p92 (小学校1、2年○読書　p56)

実態把握結果一覧　国語科　知識及び技能　　1年目　年度初め　　年　組　氏名　　記録者

	内容	評価
言葉の働き	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	中学部2段階 0
	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	中学部1段階 0
	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	小学部2段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	小学部1段階 0

	内容	評価
話し言葉と書き言葉①	(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	中学部2段階 0
	(イ)発声や声の大きさに気を付けて話すこと。	中学部1段階 0
	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
話し言葉と書き言葉②	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	中学部2段階 0
	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	中学部1段階 0
	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	小学部3段階 0
	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	小学部2段階 0
	―	小学部1段階

	内容	評価
語彙	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	中学部2段階 0
	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	中学部1段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	小学部2段階 0
	(エ) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	小学部1段階 0

	内容	評価
文や文章	(オ)修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	中学部2段階 0
	(オ)主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	中学部1段階 0
	(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
言葉遣い	(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	中学部2段階 0
	(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	中学部1段階 0
	―	小学部3段階
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
音読	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。	中学部2段階 0
	(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	中学部1段階 0
	(カ)正しい姿勢で音読すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報と情報との関係	(ア) 考えとそれを支える理由など、情報と情報の関係について理解すること。	中学部2段階 0
	(ア) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	中学部1段階 0
	(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報の整理	(イ)必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	中学部2段階 0
	―	中学部1段階
	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
伝統的な言語文化①	(ア)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部2段階 0
	(ア)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部1段階 0
	(ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部3段階 0
	(ア)昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部2段階 0
	(ア)昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	小学部1段階 0

	内容	評価
伝統的な言語文化②	(イ)生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	中学部2段階 0
	(イ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知る。	中学部1段階 0
	(イ)出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	小学部3段階 0
	(イ)遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	小学部2段階 0
	(イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	小学部1段階 0

	内容	評価
書写	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ㋑漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	中学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㋑点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	中学部1段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	小学部3段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ㋑写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	小学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㋑ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	小学部1段階 0

	内容	評価
読書	(エ)幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	中学部2段階 0
	(エ)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	中学部1段階 0
	(エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	小学部3段階 0
	(エ)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑に興味をもつこと。	小学部2段階 0
	(エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	小学部1段階 0

実態把握結果一覧　国語科　知識及び技能　　1年目　年度末　　年　組　氏名　　記録者

	内容	評価
言葉の働き	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	中学部2段階 0
	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	中学部1段階 0
	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	小学部2段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	小学部1段階 0

	内容	評価
話し言葉と書き言葉①	(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	中学部2段階 0
	(イ)発声や声の大きさに気を付けて話すこと。	中学部1段階 0
	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
話し言葉と書き言葉②	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	中学部2段階 0
	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	中学部1段階 0
	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	小学部3段階 0
	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	小学部2段階 0
	―	小学部1段階

	内容	評価
語彙	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	中学部2段階 0
	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	中学部1段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	小学部2段階 0
	(エ) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	小学部1段階 0

	内容	評価
文や文章	(オ)修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	中学部2段階 0
	(オ)主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	中学部1段階 0
	(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
言葉遣い	(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	中学部2段階 0
	(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	中学部1段階 0
	―	小学部3段階
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
音読	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。	中学部2段階 0
	(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	中学部1段階 0
	(カ)正しい姿勢で音読すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報と情報との関係	(ア) 考えとそれを支える理由など、情報と情報の関係について理解すること。	中学部2段階 0
	(ア) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	中学部1段階 0
	(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報の整理	(イ)必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	中学部2段階 0
	―	中学部1段階
	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
伝統的な言語文化①	(ア)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部2段階 0
	(ア)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部1段階 0
	(ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部3段階 0
	(ア)昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部2段階 0
	(ア)昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	小学部1段階 0

	内容	評価
伝統的な言語文化②	(イ)生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	中学部2段階 0
	(イ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知る。	中学部1段階 0
	(イ)出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	小学部3段階 0
	(イ)遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	小学部2段階 0
	(イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	小学部1段階 0

	内容	評価
書写	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ㋑漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	中学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㋑点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	中学部1段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	小学部3段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ㋑写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	小学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㋑ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	小学部1段階 0

	内容	評価
読書	(エ)幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	中学部2段階 0
	(エ)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	中学部1段階 0
	(エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	小学部3段階 0
	(エ)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑に興味をもつこと。	小学部2段階 0
	(エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	小学部1段階 0

実態把握結果一覧　国語科　知識及び技能　　2年目　年度初め　　年　組　氏名　　記録者

	内容	評価
言葉の働き	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	中学部2段階 0
	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	中学部1段階 0
	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	小学部2段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	小学部1段階 0

	内容	評価
話し言葉と書き言葉①	(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	中学部2段階 0
	(イ)発声や声の大きさに気を付けて話すこと。	中学部1段階 0
	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
話し言葉と書き言葉②	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	中学部2段階 0
	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	中学部1段階 0
	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	小学部3段階 0
	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	小学部2段階 0
	―	小学部1段階

	内容	評価
語彙	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	中学部2段階 0
	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	中学部1段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	小学部2段階 0
	(エ) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	小学部1段階 0

	内容	評価
文や文章	(オ)修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	中学部2段階 0
	(オ)主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	中学部1段階 0
	(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
言葉遣い	(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	中学部2段階 0
	(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	中学部1段階 0
	―	小学部3段階
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
音読	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。	中学部2段階 0
	(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	中学部1段階 0
	(カ)正しい姿勢で音読すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報と情報との関係	(ア) 考えとそれを支える理由など、情報と情報の関係について理解すること。	中学部2段階 0
	(ア) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	中学部1段階 0
	(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報の整理	(イ)必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	中学部2段階 0
	―	中学部1段階
	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
伝統的な言語文化①	(ア)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部2段階 0
	(ア)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部1段階 0
	(ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部3段階 0
	(ア)昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部2段階 0
	(ア)昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	小学部1段階 0

	内容	評価
伝統的な言語文化②	(イ)生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	中学部2段階 0
	(イ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知る。	中学部1段階 0
	(イ)出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	小学部3段階 0
	(イ)遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	小学部2段階 0
	(イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	小学部1段階 0

	内容	評価
書写	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ㋑漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	中学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㋑点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	中学部1段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	小学部3段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ㋑写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	小学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㋑ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	小学部1段階 0

	内容	評価
読書	(エ)幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	中学部2段階 0
	(エ)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	中学部1段階 0
	(エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	小学部3段階 0
	(エ)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑に興味をもつこと。	小学部2段階 0
	(エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	小学部1段階 0

実態把握結果一覧　国語科　知識及び技能　　2年目　年度末　　年　組　氏名　　記録者

	内容	評価
言葉の働き	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	中学部2段階 0
	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	中学部1段階 0
	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	小学部2段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	小学部1段階 0

	内容	評価
話し言葉と書き言葉①	(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	中学部2段階 0
	(イ)発声や声の大きさに気を付けて話すこと。	中学部1段階 0
	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
話し言葉と書き言葉②	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	中学部2段階 0
	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	中学部1段階 0
	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	小学部3段階 0
	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	小学部2段階 0
	―	小学部1段階

	内容	評価
語彙	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	中学部2段階 0
	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	中学部1段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	小学部2段階 0
	(エ) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	小学部1段階 0

	内容	評価
文や文章	(オ)修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	中学部2段階 0
	(オ)主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	中学部1段階 0
	(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
言葉遣い	(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	中学部2段階 0
	(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	中学部1段階 0
	―	小学部3段階
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
音読	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。	中学部2段階 0
	(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	中学部1段階 0
	(カ)正しい姿勢で音読すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報と情報との関係	(ア) 考えとそれを支える理由など、情報と情報の関係について理解すること。	中学部2段階 0
	(ア) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	中学部1段階 0
	(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報の整理	(イ)必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	中学部2段階 0
	―	中学部1段階
	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
伝統的な言語文化①	(ア)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部2段階 0
	(ア)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部1段階 0
	(ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部3段階 0
	(ア)昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部2段階 0
	(ア)昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	小学部1段階 0

	内容	評価
伝統的な言語文化②	(イ)生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	中学部2段階 0
	(イ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知る。	中学部1段階 0
	(イ)出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	小学部3段階 0
	(イ)遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	小学部2段階 0
	(イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	小学部1段階 0

	内容	評価
書写	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ㋑漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	中学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㋑点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	中学部1段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	小学部3段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ㋑写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	小学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㋑ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	小学部1段階 0

	内容	評価
読書	(エ)幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	中学部2段階 0
	(エ)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	中学部1段階 0
	(エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	小学部3段階 0
	(エ)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑に興味をもつこと。	小学部2段階 0
	(エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	小学部1段階 0

実態把握結果一覧　国語科　知識及び技能　　3年目　年度初め　　年　組　氏名　　記録者

	内容	評価
言葉の働き	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	中学部2段階 0
	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	中学部1段階 0
	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	小学部2段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	小学部1段階 0

	内容	評価
話し言葉と書き言葉①	(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	中学部2段階 0
	(イ)発声や声の大きさに気を付けて話すこと。	中学部1段階 0
	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
話し言葉と書き言葉②	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	中学部2段階 0
	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	中学部1段階 0
	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	小学部3段階 0
	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	小学部2段階 0
	―	小学部1段階

	内容	評価
語彙	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	中学部2段階 0
	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	中学部1段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	小学部2段階 0
	(エ) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	小学部1段階 0

	内容	評価
文や文章	(オ)修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	中学部2段階 0
	(オ)主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	中学部1段階 0
	(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
言葉遣い	(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	中学部2段階 0
	(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	中学部1段階 0
	―	小学部3段階
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
音読	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。	中学部2段階 0
	(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	中学部1段階 0
	(カ)正しい姿勢で音読すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報と情報との関係	(ア) 考えとそれを支える理由など、情報と情報の関係について理解すること。	中学部2段階 0
	(ア) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	中学部1段階 0
	(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報の整理	(イ)必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	中学部2段階 0
	―	中学部1段階
	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
伝統的な言語文化①	(ア)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部2段階 0
	(ア)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部1段階 0
	(ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部3段階 0
	(ア)昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部2段階 0
	(ア)昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	小学部1段階 0

	内容	評価
伝統的な言語文化②	(イ)生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	中学部2段階 0
	(イ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知る。	中学部1段階 0
	(イ)出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	小学部3段階 0
	(イ)遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	小学部2段階 0
	(イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	小学部1段階 0

	内容	評価
書写	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ㋑漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	中学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㋑点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	中学部1段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	小学部3段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ㋑写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	小学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㋑ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	小学部1段階 0

	内容	評価
読書	(エ)幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	中学部2段階 0
	(エ)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	中学部1段階 0
	(エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	小学部3段階 0
	(エ)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑に興味をもつこと。	小学部2段階 0
	(エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	小学部1段階 0

実態把握結果一覧　国語科　知識及び技能　　3年目　年度末　　年　組　氏名　　記録者

	内容	評価
言葉の働き	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	中学部2段階 0
	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	中学部1段階 0
	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	小学部2段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	小学部1段階 0

	内容	評価
話し言葉と書き言葉①	(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	中学部2段階 0
	(イ)発声や声の大きさに気を付けて話すこと。	中学部1段階 0
	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
話し言葉と書き言葉②	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	中学部2段階 0
	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	中学部1段階 0
	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	小学部3段階 0
	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	小学部2段階 0
	―	小学部1段階

	内容	評価
語彙	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	中学部2段階 0
	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	中学部1段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	小学部2段階 0
	(エ) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	小学部1段階 0

	内容	評価
文や文章	(オ)修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	中学部2段階 0
	(オ)主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	中学部1段階 0
	(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
言葉遣い	(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	中学部2段階 0
	(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	中学部1段階 0
	―	小学部3段階
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
音読	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。	中学部2段階 0
	(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	中学部1段階 0
	(カ)正しい姿勢で音読すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報と情報との関係	(ア) 考えとそれを支える理由など、情報と情報の関係について理解すること。	中学部2段階 0
	(ア) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	中学部1段階 0
	(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報の整理	(イ)必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	中学部2段階 0
	―	中学部1段階
	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
伝統的な言語文化①	(ア)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部2段階 0
	(ア)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部1段階 0
	(ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部3段階 0
	(ア)昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部2段階 0
	(ア)昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	小学部1段階 0

	内容	評価
伝統的な言語文化②	(イ)生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	中学部2段階 0
	(イ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知る。	中学部1段階 0
	(イ)出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	小学部3段階 0
	(イ)遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	小学部2段階 0
	(イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	小学部1段階 0

	内容	評価
書写	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ㋑漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	中学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㋑点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	中学部1段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	小学部3段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ㋑写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	小学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㋑ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	小学部1段階 0

	内容	評価
読書	(エ)幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	中学部2段階 0
	(エ)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	中学部1段階 0
	(エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	小学部3段階 0
	(エ)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑に興味をもつこと。	小学部2段階 0
	(エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	小学部1段階 0

実態把握結果一覧　国語科　知識及び技能　　4年目　年度初め　　年　組　氏名　　記録者

	内容	評価
言葉の働き	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	中学部2段階 0
	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	中学部1段階 0
	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	小学部2段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	小学部1段階 0

	内容	評価
話し言葉と書き言葉①	(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	中学部2段階 0
	(イ)発声や声の大きさに気を付けて話すこと。	中学部1段階 0
	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
話し言葉と書き言葉②	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	中学部2段階 0
	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	中学部1段階 0
	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	小学部3段階 0
	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	小学部2段階 0
	―	小学部1段階

	内容	評価
語彙	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	中学部2段階 0
	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	中学部1段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	小学部2段階 0
	(エ) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	小学部1段階 0

	内容	評価
文や文章	(オ)修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	中学部2段階 0
	(オ)主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	中学部1段階 0
	(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
言葉遣い	(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	中学部2段階 0
	(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	中学部1段階 0
	―	小学部3段階
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
音読	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。	中学部2段階 0
	(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	中学部1段階 0
	(カ)正しい姿勢で音読すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報と情報との関係	(ア) 考えとそれを支える理由など、情報と情報の関係について理解すること。	中学部2段階 0
	(ア) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	中学部1段階 0
	(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報の整理	(イ)必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	中学部2段階 0
	―	中学部1段階
	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
伝統的な言語文化①	(ア)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部2段階 0
	(ア)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部1段階 0
	(ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部3段階 0
	(ア)昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部2段階 0
	(ア)昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	小学部1段階 0

	内容	評価
伝統的な言語文化②	(イ)生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	中学部2段階 0
	(イ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知る。	中学部1段階 0
	(イ)出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	小学部3段階 0
	(イ)遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	小学部2段階 0
	(イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	小学部1段階 0

	内容	評価
書写	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ㋑漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	中学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㋑点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	中学部1段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	小学部3段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ㋑写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	小学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㋑ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	小学部1段階 0

	内容	評価
読書	(エ)幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	中学部2段階 0
	(エ)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	中学部1段階 0
	(エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	小学部3段階 0
	(エ)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑に興味をもつこと。	小学部2段階 0
	(エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	小学部1段階 0

実態把握結果一覧　国語科　知識及び技能　　4年目　年度末　　年　組　氏名　　記録者

	内容	評価
言葉の働き	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	中学部2段階 0
	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	中学部1段階 0
	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	小学部2段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	小学部1段階 0

	内容	評価
話し言葉と書き言葉①	(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	中学部2段階 0
	(イ)発声や声の大きさに気を付けて話すこと。	中学部1段階 0
	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
話し言葉と書き言葉②	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	中学部2段階 0
	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	中学部1段階 0
	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	小学部3段階 0
	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	小学部2段階 0
	―	小学部1段階

	内容	評価
語彙	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	中学部2段階 0
	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	中学部1段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	小学部2段階 0
	(エ) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	小学部1段階 0

	内容	評価
文や文章	(オ)修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	中学部2段階 0
	(オ)主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	中学部1段階 0
	(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
言葉遣い	(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	中学部2段階 0
	(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	中学部1段階 0
	―	小学部3段階
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
音読	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。	中学部2段階 0
	(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	中学部1段階 0
	(カ)正しい姿勢で音読すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報と情報との関係	(ア) 考えとそれを支える理由など、情報と情報の関係について理解すること。	中学部2段階 0
	(ア) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	中学部1段階 0
	(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報の整理	(イ)必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	中学部2段階 0
	―	中学部1段階
	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
伝統的な言語文化①	(ア)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部2段階 0
	(ア)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部1段階 0
	(ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部3段階 0
	(ア)昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部2段階 0
	(ア)昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	小学部1段階 0

	内容	評価
伝統的な言語文化②	(イ)生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	中学部2段階 0
	(イ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知る。	中学部1段階 0
	(イ)出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	小学部3段階 0
	(イ)遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	小学部2段階 0
	(イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	小学部1段階 0

	内容	評価
書写	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ㋑漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	中学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㋑点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	中学部1段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	小学部3段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ㋑写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	小学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㋑ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	小学部1段階 0

	内容	評価
読書	(エ)幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	中学部2段階 0
	(エ)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	中学部1段階 0
	(エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	小学部3段階 0
	(エ)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑に興味をもつこと。	小学部2段階 0
	(エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	小学部1段階 0

実態把握結果一覧　国語科　知識及び技能　　5年目　年度初め　　年　組　氏名　　記録者

	内容	評価
言葉の働き	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	中学部2段階 0
	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	中学部1段階 0
	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	小学部2段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	小学部1段階 0

	内容	評価
話し言葉と書き言葉①	(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	中学部2段階 0
	(イ)発声や声の大きさに気を付けて話すこと。	中学部1段階 0
	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
話し言葉と書き言葉②	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	中学部2段階 0
	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	中学部1段階 0
	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	小学部3段階 0
	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	小学部2段階 0
	―	小学部1段階

	内容	評価
語彙	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	中学部2段階 0
	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	中学部1段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	小学部2段階 0
	(エ) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	小学部1段階 0

	内容	評価
文や文章	(オ)修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	中学部2段階 0
	(オ)主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	中学部1段階 0
	(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
言葉遣い	(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	中学部2段階 0
	(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	中学部1段階 0
	―	小学部3段階
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
音読	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。	中学部2段階 0
	(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	中学部1段階 0
	(カ)正しい姿勢で音読すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報と情報との関係	(ア) 考えとそれを支える理由など、情報と情報の関係について理解すること。	中学部2段階 0
	(ア) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	中学部1段階 0
	(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報の整理	(イ)必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	中学部2段階 0
	―	中学部1段階
	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
伝統的な言語文化①	(ア)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部2段階 0
	(ア)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部1段階 0
	(ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部3段階 0
	(ア)昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部2段階 0
	(ア)昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	小学部1段階 0

	内容	評価
伝統的な言語文化②	(イ)生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	中学部2段階 0
	(イ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知る。	中学部1段階 0
	(イ)出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	小学部3段階 0
	(イ)遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	小学部2段階 0
	(イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	小学部1段階 0

	内容	評価
書写	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ㋑漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	中学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㋑点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	中学部1段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	小学部3段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ㋑写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	小学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㋑ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	小学部1段階 0

	内容	評価
読書	(エ)幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	中学部2段階 0
	(エ)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	中学部1段階 0
	(エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	小学部3段階 0
	(エ)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑に興味をもつこと。	小学部2段階 0
	(エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	小学部1段階 0

実態把握結果一覧　国語科　知識及び技能　　5年目　年度末　　年　組　氏名　　記録者

	内容	評価
言葉の働き	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	中学部2段階 0
	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	中学部1段階 0
	(ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。	小学部2段階 0
	(ア)身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。	小学部1段階 0

	内容	評価
話し言葉と書き言葉①	(イ)発声や発音に気を付けたり、声の大きさを調節したりして話すこと。	中学部2段階 0
	(イ)発声や声の大きさに気を付けて話すこと。	中学部1段階 0
	(イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
話し言葉と書き言葉②	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方を理解し、文や文章の中で使うこと。	中学部2段階 0
	(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。	中学部1段階 0
	(ウ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。	小学部3段階 0
	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	小学部2段階 0
	―	小学部1段階

	内容	評価
語彙	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	中学部2段階 0
	(ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	中学部1段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	小学部3段階 0
	(エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることを理解するとともに、話し方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。	小学部2段階 0
	(エ) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、使える範囲を広げること。	小学部1段階 0

	内容	評価
文や文章	(オ)修飾と被修飾との関係、指示する語句の役割について理解すること。	中学部2段階 0
	(オ)主語と述語の関係や接続する語句の役割を理解すること。	中学部1段階 0
	(オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
言葉遣い	(カ)敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くこと。	中学部2段階 0
	(カ)普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。	中学部1段階 0
	―	小学部3段階
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
音読	(キ)内容の大体を意識しながら音読すること。	中学部2段階 0
	(キ)語のまとまりに気を付けて音読すること。	中学部1段階 0
	(カ)正しい姿勢で音読すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報と情報との関係	(ア) 考えとそれを支える理由など、情報と情報の関係について理解すること。	中学部2段階 0
	(ア) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。	中学部1段階 0
	(ア) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
情報の整理	(イ)必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。	中学部2段階 0
	―	中学部1段階
	図書を用いた調べ方を理解し使うこと。	小学部3段階 0
	―	小学部2段階
	―	小学部1段階

	内容	評価
伝統的な言語文化①	(ア)易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部2段階 0
	(ア)自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	中学部1段階 0
	(ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部3段階 0
	(ア)昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	小学部2段階 0
	(ア)昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	小学部1段階 0

	内容	評価
伝統的な言語文化②	(イ)生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。	中学部2段階 0
	(イ)挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知る。	中学部1段階 0
	(イ)出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。	小学部3段階 0
	(イ)遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	小学部2段階 0
	(イ)遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	小学部1段階 0

	内容	評価
書写	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ㋑漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	中学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㋑点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。	中学部1段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。	小学部3段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ㋑写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	小学部2段階 0
	(ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㋐ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㋑ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	小学部1段階 0

	内容	評価
読書	(エ)幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	中学部2段階 0
	(エ)読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	中学部1段階 0
	(エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	小学部3段階 0
	(エ)読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑に興味をもつこと。	小学部2段階 0
	(エ)読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	小学部1段階 0